

頬切地藏

この石の彫像は、平安時代（794–1185）後期から参詣者やハイカーが丹生都比売神社や高野山へと向かうのを見守ってきました。この石を彫った人は、石の自然の形状を活かして小さな寺の形に整え、側面のうちの三面にそれぞれ一体ずつ仏の姿を彫りました。

中央の像は、大日如来（the Cosmic Buddha）という宇宙に光をもたらす仏です。この仏の顔にある石のひび割れは傷のように見えることから、頬が切れているという意味の頬切の名が付けました。頭と顔に関係する病気に苦しむ人々が訪れ、この穏やかな像に祈ります。石の両脇は、釈迦如来（the historical Buddha）と無限の光明と寿命を持つ仏である阿弥陀如来です。